

令和3年6月22日(水)  
会議室 15:30～17:00

## 第1回学校運営協議会 議事録

### 1. 校長挨拶

今年度もコロナの影響で体育祭が2回延期となったが、ようやく今週金曜日に開催できそうである。また海外研修は中止または延期、スタディツアーも行先を国内に変更して実施予定である。いろいろな面で生徒たちには我慢を強いているが、生徒は毎日元気に学校生活を送ってくれている。本日は今年度の取組みの予定についてご説明申し上げ、それについての忌憚のないご意見やアドバイスを頂戴し、今後の学校運営に活かしていきたいと考えている。

### 2. 委員紹介

森田英嗣委員、高島裕二委員、森本哲弘委員、篠原宏明委員、劉耕助委員

### 3. 今年度の本校の取組について

#### (1) 本年度の学校経営計画について

- ・学力向上と進路実現については、昨年同様「学習指導PT」が中心となり公開授業を行っている。
- ・ICT推進委員会を設置し、9月に生徒1人1台配布予定のタブレットを、どのように活用していくかを検討しながら進めていく。
- ・3年間を見通した進路指導を進めていく。
- ・探究サイクルを一般教科にも取り入れ、課題解決型授業を実施する。
- ・評価についての研究を進める。
- ・外国語教育では、ディベート指導や、SE（スーパーイングリッシュ）SK（スーパーコリアン）を実施する。英語合宿は2年連続でできなかったが、今年度はなんとか実施できればと考えている。
- ・SSHの活性化を図る。住高支援ネットワーク（住高卒業生の方々に本校の研究のアドバイスを頂く）の構築。
- ・総合的な探究の時間に、SDGsをテーマとした活動を行う。
- ・人権教育に力を入れる。
- ・生徒の支援体制の全校化を進める。
- ・自治会部を中心として、生徒主体で運営する行事をさらに充実させる。
- ・生活指導部を中心としたマナー指導を行う。
- ・保健部主導の保健衛生指導を進めていく。

- ・今年度、三菱みらい育成財団からの助成（1・2年生の取組に対して年間200万円）が決定。総合的な探究の時間を充実させていきたい。

## (2) 総合科学科の取組について

- ・課題研究の質的向上および外部連携の強化、生徒たちがワクワクするような環境づくりをめざす。

[A]研究で困難な局面に遭遇したとき、30名程度の卒業生に登録していただいている住高支援ネットワークの方々に、オンライン上で質問をする掲示板を立ち上げる。7～8月頃サーバーをレンタルし、9月に試行の予定。

[B]オンライン研究相談会（ZOOM等を用いて、本校での研究の内容についての疑問や質問などを、大学教授などに相談する）の実施。実際、6月15日に本校のメダカの研究チームが、大阪医科薬科大の先生にオンラインで質問をした。専門の学者は的確で有意義なアドバイスをくださるので、生徒たちは知りたかったことがたくさん訊けてとても喜び、研究に対するモチベーションも上がった。

- ・国際共同研究について。月に2回、台湾の姉妹校とオンラインビデオ会議で「ゼブラフィッシュ」「線虫」の研究をしている。
- ・国際文化科への課題研究の普及。三菱みらい育成財団からの助成金を利用して、76期生の探究プロジェクト「SUKI PURO」（個人的興味と世界をつなげて「好き」を探究）が発動しているので、総合科学科で培った課題研究のノウハウを伝えていく。
- ・SSⅢが4名だけしかいないので困っている。

## (3) 国際文化科の取組について

- ・各教室にプロジェクターが配備され、また最近ではデジタル教材も増えてきているので、授業の幅が広がっている。
- ・国際関係学科設置校10校で開催してきた3月のインターナショナルフェスティバルは、対面実施できなかつたため、動画で参加した。
- ・大阪教育庁主催のEnglish Campは応募37人中18人が当選し参加した。
- ・同庁主催English Conferenceは応募27人中4人が当選し参加した。
- ・GTEC アセスメント版を実施予定。スピーキングテストはタブレットを用いて実施するが、タブレットが受験者全員分に満たないので、時間割変更をしながら校内実施している。また、GTEC アセスメント版スコアは推薦入試では使えないので、民間試験として何がよいのかが今後の検討課題。
- ・来年度から第2外国語が学科内選択必修科目となる。

## (4) 国際部の取組について

- ・今夏予定していた海外研修はすべて中止。今年度の留学生受け入れもなし。

- ・オンラインを活用しての交流を実施。ラオスとは月2回程度、ニューヨークとは時差の関係もありオンライン文通を実施。7, 8月には韓国とオンライン研修、およびECCグローバル体験を実施予定。
- ・ユネスコスクールの活動に関しては、コロナの影響により、実施の目途はたっていない。

#### (5) 教務部の取組について

- ・観点別学習状況の評価について。「知識・技能」「思考・判断・表現」については従来の取組を考えながら対応していく。「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどのように行うかが現在の課題である。夏休み明けから試行予定。

#### (6) 進路指導結果及び今年度の取組や目標

- ・現3年生の国公立大学志望者が減少。本校では2年生のときの科目選択時に国公立か私立かが大まかに決まってしまうのだが、昨年度はコロナの影響で4, 5月が休校になったために時間的余裕がなく、生徒に対して十分な働きかけができないまま科目選択が終わってしまったことが原因と考えている。
- ・昨年度は、国公立希望者数に対して、共通テストを5教科で受験する生徒が少なかった。自分の実力を冷静に分析しての判断だと思う。1年入学時のスタディサポートの結果では、半数程度が市大・府大に進学できる力をもっているはずなので、生徒の実力を伸ばしきれていない部分もある。
- ・進路指導部からもっと積極的に生徒に働きかけ、国公立志望者が増えたらよいと思っている。

#### (7) 生活指導部の取組について

- ・「延べ遅刻件数1500未満」を目標としている。
- ・様々な事情を抱えた生徒もいるので、そのあたりは丁寧に対処しながら、結果的に目標を達成できるように指導を続けていく。

##### 自治会の取組について

- ・生徒の主体性を大切にして行事を行う。
- ・体育祭は緊急事態宣言による2度の延期を経て、今週金曜日に実施予定。
- ・生徒との対話を重視し、生徒の希望をなるべく実現するよう心掛けている。
- ・他校の自治会・生徒会との交流や連携を模索していきたい。

#### (8) 保健部の取組について

- ・コロナの影響で、保健室来室数や教育相談件数は増えている。行事の中止等で、なかなか人間関係を築けない生徒がいる。スクールカウンセラーへの相談件数も増加。

- ・絶対にクラスターを発生させないことを目標としている。
- ・換気は常に行っている。
- ・教員で分担して、すべての場所を消毒している。
- ・食堂には飛沫飛散防止ボードを設置。昼食時の密を避けるため、各学年2つずつ展開教室を食事場所として開放している。
- ・昼休みに放送部に、ソーシャルディスタンスや食事中は対面しないなど、注意喚起の放送をしてもらっている。

#### (9) 住吉改革委員会 (SIC) の取組及び GIGA スクール構想について

- ・学習指導 PT による授業公開月間を実施中。学習指導案等は作成せず、気軽に授業を見学し、互いのよいところを吸収して、授業改善につなげるのが目的。2学期の授業公開月間では、教科間で観点別学習状況の評価の方法の研究という意図ももちつつ授業見学をする場としたい。
- ・3月に教員用 Chromebook が 23 台配備された。5月に各教室の Wi-fi 環境を整備。教員個人端末もインターネット接続可能となった。9月に生徒全員分の貸与用 Chromebook が配備予定。
- ・問題点。OS が Windows ではないので、なかなか使い方に慣れない教員もいる。また、どのような形で活用していくかも手探りの状態なので、7月に来校予定の GIGA スクールサポーターと相談しながら進めていく。

#### 4. 質疑・協議 (● 質問・意見 →回答)

- 学習指導要領が来年度から新しくなり、現指導要領での最後の年になるが、最後の年ならではの目標のようなものはあるか。  
→最後の年だからということにはない。
- SSⅢの希望者が4名という報告があった。SSHは住高の独自性に当たる部分と考えているので、これは非常に寂しい数字であると思う。打開策などは考えているか。  
→管理職も含め、関係者でいろいろと考えてはいるが、なかなか決定打がない状態。希望者が少ない原因として、最近生徒が受験に直結する科目選択をする傾向にあるということが挙げられる。
- 観点別学習状況の評価については生徒にどのように説明するのか。  
→具体的にどのように説明するかについてはまだ検討中だが、どう評価するかについては、生徒に予め示しておくべきであると考えている。主体性の評価については、ABCDなどの評価をつけるにしろ、担当教員の主観が入ってはいけないので、ルーブリックなどをうまく使う必要もあるだろう。
- 誰のための評価なのかということを見ると、生徒がより学習に前向きになり意欲を

もつためのものにするべきであろう。ABCD の 4 段階評価をしている学校もあるが、「修得」・「利用」・「活用」の 3 段階評価をしている学校もある。後者のような表現の方が、生徒の学習意欲につながるのではないか。また、生徒への説明もしやすいのではないか。

- 「探究」という言葉だけでは、中学生やその保護者も、どのような内容なのかイメージが湧かないようだ。また「探究」は成果を発表しがちで、とても難しい印象をもってしまう。そこで、実践している学校もあるのだが、SNS を利用して探究の「プロセス」を発信すれば、多くの人に具体的で親しみやすいイメージをもってもらえるのではないか。
- 生徒の知的好奇心やニーズに応えることができる住高支援ネットワークはとてもよい取組みだと思う。SSⅢにも絡めていけばよいのではないか。
- 探究の「プロセス」はネット上に少なからずアップされている。そこで、同様の課題を研究している高校生たちとオンラインでつながることはできれば、よりよい探究活動につながるのではないか。
- 推薦入試の指導等で、オープンキャンパスに参加させるだけでなく、その大学にはどんな研究室があるのか、その分野の最先端の研究はどのようなものか、というところまで生徒に突き詰めて調べさせれば、「探究」にもつながるのではないか。
- 自治会の生徒と話をする機会をいただけないか。後援会としては、子どもたちの要望を聞いた上で、なるべくそれに沿う形の支援ができればうれしい。

## 5. 校長より謝辞

本日頂戴した貴重なご意見・アドバイスをもとに、今年度の教育活動を進めていき、第 2 回協議会の折には、よい報告をしたいと思っている。また、本校は来年創立 100 周年を迎えるが、それに向けて実行委員会で食堂の改修を行う。7 月下旬から工事を行う予定なので、次回協議会では、改修後の食堂の方にもご案内申し上げたい。

## 6. 今後の予定

第 2 回は 10 月、第 3 回は 2 月に開催予定。